



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発責 情報・宣伝部
2024年7月14日 No.783

第13回 定期大会を開催



結成から10年！全組合員が積み重ねてきた成果を確認し、 2024年度運動方針を含む、すべての議案を満場一致で承認・決定！

東日本ユニオンは7月9日に「令和6年能登半島地震」で被災した新潟県において、復興への想いを込め、新潟県「万代市民会館」で「第13回定期大会」を開催しました。結成から10年の節目を迎え、全組合員が積み上げてきた取り組みの成果を全体で確認し、2024年度運動方針をはじめ、すべての議案を満場一致で承認・決定しました。

冒頭、あいさつに立った藤本中央執行委員長は「2013年の結成はゴールではなく、新たな労働組合を創造するスタートであった。結成から10年の節目を迎えた今日、新たな5年先、10年先の未来を創造する大会にしよう」と呼びかけました。

質疑では全地方本部の代議員から発言を受け、所属する労働組合の枠を超えた職場からの取り組みや安全・健康を第一とした労働環境を改善してきた取り組みの報告、組織拡大実現にむけた取り組みなどの成果が語られ、提起した運動方針がさらに補強されました。

大会終了後には5年ぶりに「大交流会」を開催し、組合員相互の親睦を深め合うなど、大会構成員と傍聴者をはじめ、すべての組合員の力で「第13回定期大会」を成功させることができました。

**私たち東日本ユニオンは
安全の確立・労働条件の向上にむけて取り組み続けます！**

大会宣言 (案)

本日、私たちは「令和6年能登半島地震」で被災した新潟県において、復興の想いを込め「新潟市万代市民会館」で「第13回定期大会」を開催した。結成10周年の節目となる今大会では、この間、積み重ねてきた成果を確認すると共に、さらに未来へと歩みを進めていく運動方針を満場一致で確認した。

今、JR東日本の安全が問われている。私たちは労働組合として事後対応ではなく、事故を未然に防ぐことをめざす。そのために企業活動や会社施策の点検・検証活動を進め、命を守ることを絶対の基軸とした「安全の確立」に向けて職場から取り組んでいく。

経営側は「変革2027」の実現に向け、これまで以上にスピードを上げて「構造改革」を推し進めている。担務の兼務による業務量の増加や統括センター化による広域での勤務など、社員一人ひとりの業務負担は大きくなっている。また通勤時間の増大や単身赴任を余儀なくされている社員も増加している。私たちは労働条件の維持、改善することを目的に組織の枠を超えたJR労働者の団結のもと、定年退職まで健康で安心して働くことができる労働条件の実現をめざしていく。

2024春闘では各職場から賃金引き上げを求める想いとJR労働者の団結で訴えてきた。歴史的な物価高騰により苦しい生活実態や働き方に見合った賃金を求める声が東日本ユニオンに連日、多く寄せられた。組合員一人ひとりの行動とJR労働者の声が大きき力となり、要求に迫る賃金引き上げを実現することができた。

経営側は、第3四半期決算の営業利益を判断ベースに2024年度夏季手当「2.7ヶ月分」を支給した。東日本ユニオンは判断要素に含まれていない第4四半期分の利益だけでなく「変革2027」の実現や「安全・安定輸送」に向けた努力、上方修正した通期計画の達成に向けた奮闘など、これまで社員一丸となってつくりだしてきた成果の正当な配分として「1.0ヶ月分」の追加支給を経営側に求めてきた。経営側だけが成果を独占することを認めることはできない。

私たち東日本ユニオンがJR労働者の利益を守るために日々取り組んできたことが決して間違いではないことは、労働組合として東日本ユニオンに結集する仲間たちや各職場で応援してくれる多くの社員の存在が証明している。そのことに自信を持ち、労働組合として切磋琢磨しながら、JR労働者の明るい未来を切りひらくために全組合員の団結で東日本ユニオンを、さらに強く、そして大きくしていこう。

以上、宣言する。

2024年7月9日
JR東日本労働組合
第13回定期大会